

学校 教育 目標	「かかわる・わかる・かがやく 末吉っ子」				
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主体的に学び続け体験的な活動を生かして共に学び合う力を育てます。(知) ○ 自分の思いや考えを大切にし、行動する力を育てます。(徳) ○ 健康や安全に関心をもち、自分や人の命を大切にする力を育てます。(体) ○ 人やまちとのつながりを大切に、地域や社会のために自ら実践する力を育てます。(公) ○ 互いのよさやちがいを認め合う合い、広い視野でともに生きていく力を育てます。(開) 				
学校 概要	創立 152 周年	学校長 高山 和宣	副校長 藤野 俊子	2 学期制	一般学級: 22 個別支援学級: 5
	児童生徒数: 687 人		主な関係校: 末吉中学校・上末吉小学校・下末吉小学校・駒岡小学校		

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	末吉中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的な取組
自分づくりに関する力 課題発見・解決する力 情報活用能力	末吉中学校 上末吉小学校 下末吉小学校 駒岡小学校 末吉小学校	学校・家庭・地域の中で、夢と希望に向かって努力できる子ども ○児童、生徒指導の情報の共有化のための定期的な情報交換 ○「末吉中学校区スタンダード」の運用・検討 ○児童・生徒及び教職員の交流活動並びに地域との交流の活性化 ○義務教育9年間の学びの連続性を軸とした授業参観・授業公開

中期 取組 目標	◎子どもの声を聞きとって、人の繋がりを大切にし、一人ひとりが主役になれる魅力ある学校にします。
	○学びに関するアンケートや調査をもとに、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を組織的に進めます。 また、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて学習の楽しさを実感できる授業づくりを推進し、学力の向上を図ります。 ○誰もが安全・安心で楽しく学校生活がおくれるように心の居場所づくりと主体性の育成に努めます。 ○たてわり活動等の体験活動を充実させるとともに、「まち」や「人」とのつながりを大切に、教育活動の充実を図ります。

重点取組分野	具体的な取組
知 授業改善	①個別最適な学びと協働的な学びの一体化を進める。主に算数科の重点研究を通して授業改善を図り、自ら問題を見出し、主体的な問題解決が図られるようにする。②学力学習状況調査等の結果から必要な資質・能力を明確にし、ICTを活用するなどにより、個に応じた支援ができるようにする。③教科・領域間の連携を深め、児童の実態や意欲・関心を反映させたカリキュラムを計画・実施する。
徳 人権教育	①児童一人一人が主体的に目標や役割などを意識して活動していくための異学年交流を実施し、互いに尊重し合える場づくりを行い、自尊感情を高めていく。また、あいさつ運動を実施し、活発にコミュニケーションが交わされ、安心して活動できる環境を整える。②道徳の指導・支援に関する研修を行って授業の改善を図るとともに、その学びが日常の場面で生かされ、社会情動的コンピテンシーが育まれるようにする。
体 健康教育	①自ら運動の楽しさや健康の大切さを感じ、主体的に健康の保持増進や体力向上に取り組む姿勢を育成するため、日々の体育学習の充実を図る。一校一実践運動の立案、運営を行い、長縄大会を継続して実施する。②体力・運動調査、生活・学習意識調査の結果を分析し、児童保健委員会や体育部・食育部などが中心となり、児童が主体的に生活習慣の改善を図り、健康な生活を送るための実践を行うようにする。
公 開 特別支援教育	①児童の実態を把握し、一人ひとりの困り感に寄り添った特別支援教育を行うため、関係機関との連携を図り、研修を実施していく。また、取り出し・入り込み指導等の少人数指導を充実させる。②特別支援教室の整備を行い、個々への多様な対応を柔軟にできるようにする。必要に応じてICTを効果的に活用し、児童が学びやすく、考えを表現しやすい環境を整える。
いじめへの対応	①学校いじめ防止基本方針に基づき、月2回以上、いじめ防止連絡会を開いて各学年の情報を共有して、いじめの早期発見・早期解決に努める。いじめを確認した場合は早急にいじめ防止対策委員会を開き、迅速に対応する。また、認知したいじめの経過を解決に至るまで丁寧に見取り、改善するよう指導支援していく。②児童だけでなく、保護者へのアンケート等を分析して、些細な変化を見逃さない体制づくりを行う。
人材育成・ 組織運営(働き方)	①キャリアステージに応じた課題や目標を設定し、学校運営に積極的に参画できるようにする。メンター研究会をコンサルティングフェロー研究会と名付け、個の意見を吸い上げるとともに、一層多くの教員が関わるようにする。また、実践を伴う経験を大切に、それぞれのよさを伸ばす。②教務会を適宜行い、学校運営上の課題やその解決に向けて協議する。③グループウェア等のICTを効果的に活用して、情報の共有化、事務の効率化を図るとともに、教育活動外の業務を職員全体で見直し、意識改革を図って働き方改革につなげる。
地域学校協働活動	①「花育活動」「地域ふれあい給食」「地域ふれあい清掃」など、地域とふれあう活動を大切に、児童の意見を取り入れながら、まちや人とのつながりを大切にした学習や活動の充実を図る。②学校づくり懇話会や学校運営協議会を生かし、地域とともに子どもを育てていく。③150周年の期に作成したスローガンやキャラクターを様々な場で効果的に活用するなど、地域との連携を今後も深めていくようにする。
幼保小中の連携	①スタートカリキュラムを実施し、入学後の学校生活を安心して送ることができるようにする。②幼・保及び中学校との連携を密にし、児童理解を目的とした情報交換を行う。また、園児の学校訪問や児童生徒交流日等、子どもたち及び教職員の交流を着実に推進する。
教育環境整備	①教室その他学校の、今ある物理的・空間的な環境や学習面での要望に関して、職員や児童、保護者や地域の方からのアンケートをもとに、校内を整えたり、必要に応じて予算を執行したりすることで随時教育環境を改善し、効果的な学習ができるようにする。②教材、教具などの安全点検を定期的に行い、文書で共通理解を図るとともに、必要な部分についてはその都度回収・修理していく。
安全管理	①毎月の避難訓練や安全指導では事前の指導と事後の児童一人一人の振り返りを大切に、災害発生時や学校事故等の緊急事態発生時に、危機管理マニュアルに基づいて迅速で適切な対応ができるようにする。②門付近や交通上注意が必要な場所に職員も交代で立って様子を見るなど、直接指導する他、子どもの安全管理に関する能力を高め、登下校等における事故や事件を防ぐことができるようにする。